

# 自己の発達と共感性の関係についての探求的研究

|       |                                                                                             |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| メタデータ | 言語: jpn<br>出版者:<br>公開日: 2018-06-29<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者:<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="https://doi.org/10.24517/00051314">https://doi.org/10.24517/00051314</a>           |

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



# 自己心理学

---

## 第2巻

2005年3月

Self Psychology

Volume2

March, 2005

### 原著論文

榎本博明・矢野宏光・松田信樹

離島に暮らす中・高齢者の心理的特徴 . . . . . 1

岡田 努

自己の発達と共感性の関係についての探索的研究 . . . . . 14

田中道弘

青年の精神的健康を捉える指標の検討

— 自己肯定感と時間的展望の視点から — . . . . . 26

### 研究ノート

塩崎万里

異文化体験とアイデンティティー 帰国子女のその後 . . . . . 35

浦田 悠

「人生の意味」に関する心理学的研究の概要 . . . . . 45

### 活動報告

宮崎貴子・田中道弘

自己心理学研究会の学会活動を振り返って . . . . . 56

# 自己の発達と共感性の関係についての探索的研究

岡田 努  
(金沢大学)

## 要旨

自己概念の諸側面と多次元的な共感性との関連について大学生に対する質問紙調査を行った。その結果、両者の間で線形的な関連性は見られなかったが、クラス分析によって回答者を分類した結果、感情的共感性が低い群では、自分自身の理想像について、心理的特性に注目した判断ではなく、身体的特性の有無に注目した判断をしていることが見出された。

個人の自己概念は、発達段階によってそれぞれ異なる側面が顕在化することが指摘されてきた(Damon & Hart, 1982; Rosenberg, 1986 など)。すなわち、幼児期から児童期にかけては、身体や活動を中心とした側面で自己記述が行われ、道具的・非情緒的な自己把握が中心であるのに対して、青年期には社会的側面や心理的側面を中心とした、内面的な自己記述が中心になるとされている。一方、発達の過程においては、自己の内面への意識(私的自己)だけでなく、自己を他者の視点から客体視する側面(公的自己)が発達していくとされている。「他者が自分をどう認識するか」の把握は、自己の把握であると同時に、他者の内的過程の推論でもあり、他者の感情に対する共感性、他者の立場に立って物事を理解する能力(すなわち脱中心化)が前提となる。このような他者の立場に立つ自己(公的自己)が形成されてのち、「理想自己」が形成され、現実自己との照応が可能となるという(柏木, 1983)。またこのことは、自己の発達と、他者の内面や感情を推測する能力(心の理論)の発達が密接に絡んでいることを示すものである。他者の感情の識別に加え、自分がその感情を経験できるような、他者の内面についてのより進んだ理解は共感性と呼ばれている(久保, 1998)。自己についての理解が発達とともにその側面が変容していくならば、より発達の高い次に重きを置いて自己を把握する者ほど、これと平行して、高い共感性を持つものと考えられる。

共感性は認知的側面と感情側面に分けることができる(登張, 2000)。Davis(1983)は「不運な他者への同情や関心という他者志向の気持ち」である「共感的関心」、「緊張する対人的状況での個人的な不安や動揺など自己志向の気持ち」とされる「個人的苦痛」、「他者の心理的視点を採用する」ことである「視点取得」、本や映画や演劇の架空の人物の気持ちや行動のなかに自分自身が想像的に移行する傾向である「ファンタジー」の4因子を見出した(Davis, 1983; 登張 2000)。「視点取得」は他者の内的状態への推論という認知的側面が

中心であり、一方他の側面はいずれも情動性との関連性が高く（登張，2000）、感情的側面を中心としていると考えることができよう（ただし視点取得についても同情などと無関係ではなく、それぞれの側面が認知的・感情的側面に完全に分類できるわけではない）。上記の「心の理論」との関係では、他者の内面、感情を推測する部分は認知的側面、それを感じ取る側面は情緒的側面と言うことが出来よう。よって、共感性の発達自己の諸側面の発達の変容と関連することが考えられるが、自己の諸側面の発達と共感性の関係についてはこれまで検討がなされていない。

よって本研究は青年期の自己概念と、これに関連する諸要因についての発達的な検討を行う基礎資料として、尺度の整備を行い、これとあわせて重視される自己の側面と、共感性との関連について探索的に検討することを目的とする。

## 方 法

以下の項目による質問紙調査を行った。

1. 自己の諸側面に関する項目 山本・松井・山成(1982)の自己認知の諸側面尺度を用いた。ただし、「生き方」下位尺度については自己評価的な内容の項目を除外して「個性的な生き方をしている」のみを用いた。これら 33 項目について [1]現実の自分（現実自己）、[2]最も親しい同性の友人（親友）、[3]なりたい自分（理想自己）について、どの程度あてはまるかを評定した。
2. 共感性 (1)Davis(1980)・桜井訳(1988)による多次元共感測定尺度に基いて項目の表現を修正したもの 28 項目。また併存的妥当性の確認のため以下の尺度項目も同時に施行した。  
(2)加藤・高木(1980)による情動的共感性尺度 25 項目。「感情的暖かさ」、「感情的冷淡さ」、「感情的被影響性」の各下位尺度から成る。  
(3)角田(1994)による共感経験尺度 20 項目。「共有経験」「共有不全経験」の下位尺度をもつ。

評定はいずれも「1 全くあてはまらない」～「6 とてもあてはまる」の 6 件法である。

回答者 首都圏および近畿圏、石川県の 4 年制大学(国立・私立)学生

有効回答者 201 名(1～4 年)男子 80 名、女子 120 名、不明 1 名

実施時期 2002 年 6 月から 7 月

## 結 果 と 考 察

1. 尺度の分析 自己の諸側面に関する項目については、現実、理想、親友をまとめて最尤法による因子分析を行い 7 因子を得た。PROMAX 回転を行いパターン行列の負荷量の絶対値が .4 以上の項目を解釈した結果、「個性」「性」「スポーツ能力」「外的魅力」「社会的背景」「やさしさ」「まじめさ」と命名しうる因子が得られた (Table 1)。Cronbach の  $\alpha$  係数は

個性：.854, 性：.928, スポーツ能力：.903, 外的魅力.868, 社会的背景：.821, やさしさ：.848, まじめさ：.759 で一応の信頼性が見られた (Table 1)。

Table1 自己の諸側面についての因子パターン行列

|                       | 1     | 2     | 3     | 4     | 5     | 6     | 7     |
|-----------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 12 趣味・特技に自信がある        | .890  | -.029 | .033  | -.053 | .001  | .007  | -.015 |
| 21 特技がある              | .828  | -.060 | .025  | -.047 | -.018 | .059  | -.070 |
| 33 熱中している趣味がある        | .790  | -.030 | .065  | -.113 | -.084 | .047  | -.043 |
| 3 個性的な生き方をしている        | .636  | .037  | -.046 | .019  | -.107 | -.087 | .110  |
| 20 人よりいろいろなことを知っている   | .476  | .049  | -.036 | .096  | .100  | -.053 | .300  |
| 13 交際範囲が広い            | .267  | .181  | .084  | .167  | .051  | .210  | -.140 |
| 1 社交能力に自信がある          | .264  | .140  | .033  | .161  | .061  | .238  | .005  |
| 17 性的能力に自信がある         | .013  | .938  | .074  | -.075 | .024  | -.037 | .069  |
| 7 性的テクニックに自信がある       | .017  | .918  | .024  | .007  | .010  | -.053 | .053  |
| 24 性的経験が豊富である         | .012  | .847  | -.006 | .030  | .014  | -.002 | -.040 |
| 30 異性の勝い方がうまい         | .016  | .567  | -.054 | .395  | -.057 | .050  | -.036 |
| 6 体力・運動能力に自信がある       | -.003 | .001  | .889  | .082  | .007  | -.051 | .077  |
| 16 運動神経が発達している        | .010  | -.031 | .881  | .142  | .005  | -.058 | .037  |
| 31 得意なスポーツがある         | .133  | -.060 | .773  | -.025 | -.025 | .054  | -.072 |
| 23 スポーツマンタイプに見える      | -.072 | .192  | .686  | -.156 | .030  | .096  | -.020 |
| 29 自分の外見に自信がある        | -.105 | .084  | .012  | .971  | -.043 | -.040 | .005  |
| 11 目鼻立ちが整っている         | -.017 | .001  | .020  | .862  | -.061 | .006  | .052  |
| 32 自分の顔に気に入っているところがある | -.048 | .007  | .005  | .771  | -.014 | .049  | -.080 |
| 8 自由に使えるお金が多い         | .137  | .027  | .007  | .340  | .292  | .093  | -.073 |
| 27 家や大学などの社会的背景に自信がある | -.036 | .004  | .019  | .000  | .877  | .003  | -.004 |
| 18 家庭が裕福である           | .028  | -.035 | .066  | .145  | .671  | .038  | -.171 |
| 19 出身校が有名である          | -.080 | .086  | .025  | -.147 | .666  | -.056 | .145  |
| 9 社会的評判の良し大学に在籍している   | -.138 | -.026 | -.074 | -.081 | .625  | .016  | .252  |
| 26 経済的な面で自信がある        | .166  | -.017 | -.019 | .368  | .466  | .066  | -.090 |
| 22 おおらかな人柄である         | .048  | -.029 | -.028 | -.026 | .025  | .802  | -.002 |
| 14 人に対して寛大である         | -.034 | -.055 | .041  | .055  | .015  | .751  | .120  |
| 2 人に対して思いやりがある        | -.039 | .008  | .042  | .010  | -.062 | .724  | .259  |
| 25 同年輩の異性と楽しく話ができる    | .096  | .200  | .016  | .169  | .043  | .289  | -.071 |
| 15 責任感が強い             | .000  | .023  | .008  | -.047 | -.017 | .238  | .638  |
| 6 自分に厳しい              | .072  | -.007 | .097  | .016  | -.035 | .077  | .633  |
| 4 きちょうめんな性格である        | -.079 | .028  | -.044 | -.096 | .077  | .046  | .538  |
| 10 知的能力に自信がある         | .219  | -.044 | -.025 | .228  | .248  | -.136 | .484  |
| 28 頭の回転が早い            | .302  | -.008 | -.008 | .358  | .050  | -.051 | .362  |
| 因子相関行列                |       |       |       |       |       |       |       |
| 因子                    | 2     | 3     | 4     | 5     | 6     | 7     |       |
| 1                     | .490  | .541  | .671  | .427  | .504  | .412  |       |
| 2                     |       | .465  | .542  | .354  | .378  | .261  |       |
| 3                     |       |       | .496  | .272  | .475  | .244  |       |
| 4                     |       |       |       | .594  | .462  | .383  |       |
| 5                     |       |       |       |       | .353  | .347  |       |
| 6                     |       |       |       |       |       | .289  |       |

多次元共感測定尺度については、最尤法により4因子を抽出し、PROMAX 回転による因子分析を行った(Table 2)。パターン行列の負荷量の絶対値が4以上の項目を解釈した結果、第1因子は「劇や映画を見ると、自分が登場人物のひとりになったように感じる」「すばらしい映画を見ると、自分を主役の人物に置き換えてしまう」など、架空の人物に感情移入する傾向を示す項目から成り、Davis の「ファンタジー」因子にほぼ該当する内容であることから「ファンタジー」と命名された。第2因子は「緊急時には、どうしてよいか、わからなくなる」「緊急事態で、ひどく援助を必要とする人を見ると、とりみだしてしまう」など、緊急事態で自分自身が混乱してしまう内容の項目からなり Davis の個人的苦悩因子にほぼ合致することから、「個人的苦悩」と命名された。第3因子は「人を批判する前に、もし自分がその人だったなら、どう思うだろうかと考えるようにしている」「友だちをよく理解するために、相手の立場になって考えようとする」など他者の視点を認知的に取得する内容の項目から成り原尺度と同様に「視点取得」と命名された。第4因子は、「まわりの人が不幸でも、自分は平気でいられる」「傷ついた人を見ても、冷静でいられる」など、他者の状況に自分の感情が左右されない内容の項目から成り「冷淡さ」と命名された(Table 2)。本因子を構成する項目は元の下位尺度の因子構造とはやや異なったものとなったが、項目内容からは、「共感的関心」因子を逆転した内容を反映しているとも考えられる。Cronbach の  $\alpha$  係数はファンタジー：.817, 個人的苦悩：.828, 視点取得：.784, 冷淡さ：.774 で、一応の信頼性は得られた。また、「個人的苦悩」下位尺度は「情動的共感性尺度」の「感情的被影響性」下位尺度との間で  $r=.573$  の相関関係があった。「ファンタジー」下位尺度は同じく「感情的暖かさ」下位尺度と  $r=.454$ 、共感経験尺度の「共有経験」下位尺度と  $r=.409$ 、「視点取得」下位尺度は共感経験尺度の共有経験下位尺度と  $r=.399$ 、「冷淡さ」下位尺度は情動的共感性尺度の「感情的暖かさ」と  $r=-.304$ 、「感情的冷淡さ」下位尺度と  $r=.600$  と、それぞれ、類似した下位尺度との間に中程度以上の相関関係が見られ、併存的妥当性の指標が得られた。

2.. 自己像と共感性の関係 Table3に自己像と多次元共感性尺度得点のピアソンの相関係数を示した。ここにみられるように、共感性の「冷淡さ」と理想自己の「スポーツ能力」「やさしさ」との間で.339～.356の弱い相関が見られたが、その他では明確な相関関係は見られなかった。すなわち、共感性と自己像の発達との関係は線形的には説明できないことが示唆された。

Table2 多次元共感性尺度の因子パターン行列

|                                                  | 1     | 2     | 3     | 4     |
|--------------------------------------------------|-------|-------|-------|-------|
| 16 劇や映画を見ると、自分が登場人物のひとりになったように感じる                | .901  | -.025 | -.076 | .046  |
| 23 すばらしい映画を見ると、自分を主役の人物に置き換えてしまう                 | .810  | .019  | -.068 | .013  |
| 5 小説を読んでいて、登場人物に感情移入することがある                      | .627  | -.017 | .085  | -.045 |
| 26 おもしろい小説を読んでいる時、「もしその事件が自分に起こったらどうだろう」と、想像する   | .553  | .044  | .101  | .102  |
| 7 映画や劇を見ていても、平静で、のめり込むことはない                      | -.533 | .056  | .033  | .280  |
| 12 本や映画に夢中になることはない                               | -.322 | .072  | -.043 | .247  |
| 20 自分の目の前で突然起こったことに、感動することがある                    | .236  | .212  | .219  | -.065 |
| 22 もし自己紹介をしたら、自分を「やさしい人」と言うと思う                   | .170  | .149  | .093  | .074  |
| 1 こんな事が起こるのではないかと、起こりそうな事を想像する                   | .132  | -.064 | .132  | -.002 |
| 24 緊急時には、どうしてよいか、わからなくなる                         | -.051 | .843  | .047  | .021  |
| 19 緊急状態でも、うまく対処できる                               | .215  | -.711 | .166  | .230  |
| 6 緊急な状況では、どうしようもなく不安な気持ちになる                      | .029  | .692  | -.067 | .012  |
| 17 緊張状態になると、ビクビクする                               | .172  | .679  | -.109 | .133  |
| 27 緊急事態で、ひどく援助を必要とする人を見ると、とりまだしてしまう              | .002  | .631  | .157  | .027  |
| 28 人を批判する前に、もし自分がその人だったなら、どう思うだろうかと考えるようにしている    | -.035 | .152  | .713  | .063  |
| 11 友だちをよく理解するために、相手の立場になって考えようとする                | -.012 | .026  | .703  | -.166 |
| 21 どんな問題にも対立するふたつの見方(意見)があると思うので、その両方を考慮するように努める | -.032 | -.028 | .668  | .070  |
| 3 他人の立場に立って、物事を考えるのは苦手だ                          | .032  | .127  | -.571 | .079  |
| 25 気分を害されるような相手であっても、その人の立場になってみようとする            | .061  | .015  | .543  | .049  |
| 8 何かを決定する時には、自分と反対の意見を持つ人たちの立場に立って考えてみる          | -.023 | -.161 | .522  | .118  |
| 2 自分よりも不幸な人たちには、やさしくしたい                          | .081  | .173  | .314  | -.179 |
| 15 自分が正しい判断をしていると思うときは、他の人の意見は聞かない               | .216  | .068  | -.222 | .171  |
| 9 スポーツの試合では、負けている側を応援したくなる                       | .075  | .031  | .166  | -.035 |
| 14 まわりの人が不幸でも、自分は平気でいられる                         | .031  | -.036 | .042  | .842  |
| 13 傷ついた人を見ても、冷静でいられる                             | -.091 | .032  | .147  | .825  |
| 18 不公平な事をされている人たちを見ても、かわいそうとは思わない                | .064  | .013  | -.116 | .829  |
| 4 困っている人がいても、かわいそうだという気持ちにはならない                  | -.148 | -.008 | -.160 | .429  |
| 10 感情が高ぶると、無力感に襲われる                              | .032  | .307  | .029  | .309  |

## 因子相関行列

| 因子 | 2    | 3    | 4     |
|----|------|------|-------|
| 1  | .160 | .234 | -.088 |
| 2  |      | .011 | -.040 |
| 3  |      |      | -.174 |

Table 3 自己の諸側面と共感性の相関(上段 相関係数, 下段 人数)

|       | 感情移入   | 緊急事態     | 視点取得    | 冷淡さ      |
|-------|--------|----------|---------|----------|
| 現実自己  |        |          |         |          |
| 個性    | .147 * | -.327 ** | .120    | .022     |
|       | 201    | 199      | 196     | 199      |
| 性     | .111   | -.220 ** | .059    | .085     |
|       | 201    | 199      | 196     | 199      |
| スポーツ  | .082   | -.207 ** | .179 *  | -.230 ** |
| 能力    | 200    | 198      | 195     | 198      |
| 外見的魅力 | .040   | -.214 ** | -.033   | .121     |
|       | 201    | 199      | 196     | 199      |
| 社会的背景 | .126   | -.052    | .039    | -.061    |
|       | 200    | 198      | 195     | 198      |
| やさしさ  | .147 * | -.041    | .270 ** | -.234 ** |
|       | 201    | 199      | 196     | 199      |
| まじめさ  | -.014  | -.170 *  | .053    | .110     |
|       | 201    | 199      | 196     | 199      |

|       | 感情移入    | 緊急事態    | 視点取得    | 冷淡さ      |
|-------|---------|---------|---------|----------|
| 理想自己  |         |         |         |          |
| 個性    | .281 ** | -.014   | .221 ** | -.224 ** |
|       | 201     | 199     | 196     | 199      |
| 性     | .068    | -.042   | .035    | -.086    |
|       | 201     | 199     | 196     | 199      |
| スポーツ  | .187 ** | -.059   | .078    | -.339 ** |
| 能力    | 201     | 199     | 196     | 199      |
| 外見的魅力 | .098    | .057    | .028    | -.200 ** |
|       | 201     | 199     | 196     | 199      |
| 社会的背景 | .118    | .130    | .020    | -.059    |
|       | 201     | 199     | 196     | 199      |
| やさしさ  | .135    | .189 ** | .151 *  | -.356 ** |
|       | 201     | 199     | 196     | 199      |
| まじめさ  | .010    | -.004   | .129    | -.117    |
|       | 201     | 199     | 196     | 199      |
| 親友    |         |         |         |          |
| 個性    | .134    | .020    | .105    | .029     |
|       | 201     | 199     | 196     | 199      |
| 性     | .070    | -.092   | .155 *  | .022     |
|       | 201     | 199     | 196     | 199      |
| スポーツ  | -.044   | -.110   | .028    | -.093    |
| 能力    | 201     | 199     | 196     | 199      |
| 外見的魅力 | .047    | .008    | .068    | -.077    |
|       | 200     | 198     | 195     | 198      |
| 社会的背景 | .088    | .134    | -.020   | -.058    |
|       | 201     | 199     | 196     | 199      |
| やさしさ  | .128    | -.005   | .155 *  | -.103    |
|       | 201     | 199     | 196     | 199      |
| まじめさ  | .080    | .110    | .008    | -.038    |
|       | 201     | 199     | 196     | 199      |

\*:p&lt;.05,\*\*:p&lt;.01



3.回答者の分類 自己についての認知と共感性の程度との非線形的な関係を検討するため、共感性尺度の尺度得点（合成得点）を投入変数とし、変数間のユークリッド距離に基づいたWard法によるクラスタ分析を行い回答者を分類した。距離係数498.1を規準に3クラスタを採択した（Figure 1）。投入変数のクラスタごとの標準得点の平均値を求めた結果、各クラスタは以下のような特徴を持つと考えられた。第1クラスタ（n=84）は「個人的苦悩」が平均より高く「冷淡さ」が低い群で感情的、直情径行的な群と考えられた。第2クラスタ（n=58）は「ファンタジー」「視点取得」が高く「個人的苦悩」、「冷淡さ」が低く、感情的共感性が高い群と考えられた。第3（n=51）クラスタは「冷淡さ」のみが高く、他は平均値より低いため、共感性が低い冷淡群と考えられた。用いた変数の合成得点について、全体および各クラスタでの平均値と標準偏差をTable 3に示す。

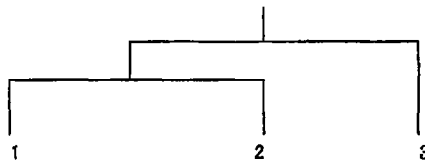


Figure 1 クラスタのデンドログラム

各クラスタ間で、自己像に関する各尺度得点の平均値を一元配置分散分析により比較した（Table 4）。多重比較（Tukey法）の結果、現実自己の個性、性、スポーツ能力で最も高く、また現実自己の「やさしさ」、理想自己の「個性、性、スポーツ能力、外見的魅力、まじめさ」で最大、また理想自己の「やさしさ」でも、第3クラスタより有意に高かった。このように感情的共感性の高い第2クラスタは、現実・理想ともに自己像について肯定的であることが見いだされた。

理想自己の側面と共感性の関連：重視する自己の側面の発達の変化と他者に対する共感性の発達の関連を検討するため、柴山（1994）を参考に個人差多次元尺度法による分析を行った。理想自己像について各項目×クラスタ間の相関行列を求め、これを $\sigma = \sqrt{1-r^2}$ によって非類似性の行列に変換し入力データとした。

S-Stressの値の減少および解釈可能性を参考に2軸までの結果を採択した。各群共通の空間に項目を布置したものをFigure 2、クラスタごとの重みづけ係数のプロットをFigure 3に示す。項目の布置から第1軸は、負方向に「個性」「やさしさ」、正方向に「社会的背景」「外見」などが布置され、内面的特徴（-）～外面的特徴（+）を区別する軸であると考えられた。また第2軸は負方向に「性」「スポーツ能力」などが布置され、正方向に「まじめさ」

Table 4 各変数の平均と標準偏差 (上段: 平均, 中段: 標準偏差, 下段: n)

|        | 全体    | 第1クラス<br>タ | 第2クラス<br>タ | 第3クラス<br>タ | F (上段)<br>多重比較 (下<br>段) |
|--------|-------|------------|------------|------------|-------------------------|
| 現実自己   |       |            |            |            |                         |
| 個性     | 18.72 | 17.87      | 20.71      | 18.10      | 7.610**                 |
|        | 4.688 | 4.686      | 4.573      | 4.182      | 13<2                    |
|        | 201   | 84         | 58         | 51         |                         |
| 性      | 9.27  | 8.55       | 10.98      | 8.86       | 6.932**                 |
|        | 4.118 | 3.645      | 4.566      | 3.847      | 13<2                    |
|        | 201   | 84         | 58         | 51         |                         |
| スポーツ能力 | 13.41 | 13.84      | 15.52      | 12.04      | 7.437**                 |
|        | 5.189 | 4.982      | 4.960      | 5.348      | 31<2                    |
|        | 200   | 88         | 58         | 51         |                         |
| 外見的魅力  | 11.87 | 11.27      | 12.71      | 11.94      | 2.526 .                 |
|        | 3.788 | 3.717      | 3.793      | 3.722      |                         |
|        | 201   | 84         | 58         | 51         |                         |
| 社会的背景  | 16.90 | 16.64      | 17.43      | 16.55      | .848 .                  |
|        | 4.069 | 4.044      | 4.389      | 3.717      |                         |
|        | 200   | 83         | 58         | 51         |                         |
| やさしさ   | 12.06 | 12.18      | 12.60      | 11.14      | 4.583*                  |
|        | 2.640 | 2.566      | 2.442      | 2.807      | 31<12                   |
|        | 201   | 84         | 58         | 51         |                         |
| まじめさ   | 15.05 | 14.48      | 15.76      | 14.94      | 2.950 .                 |
|        | 3.504 | 3.427      | 3.595      | 3.391      |                         |
|        | 201   | 84         | 58         | 51         |                         |
| 理想自己   |       |            |            |            |                         |
| 個性     | 26.29 | 26.52      | 27.72      | 24.24      | 15.017**                |
|        | 3.541 | 3.555      | 2.667      | 3.718      | 3<12                    |
|        | 201   | 84         | 58         | 51         |                         |
| 性      | 15.70 | 15.63      | 16.97      | 14.61      | 3.217*                  |
|        | 4.905 | 4.715      | 5.188      | 4.796      | 31<12                   |
|        | 201   | 84         | 58         | 51         |                         |
| スポーツ能力 | 18.91 | 19.39      | 20.17      | 16.76      | 12.676**                |
|        | 3.864 | 3.677      | 3.628      | 3.808      | 3<12                    |
|        | 201   | 84         | 58         | 51         |                         |
| 外見的魅力  | 19.25 | 19.54      | 19.83      | 18.12      | 3.836*                  |
|        | 3.447 | 3.388      | 3.584      | 3.497      | 31<12                   |
|        | 201   | 84         | 58         | 51         |                         |
| 社会的背景  | 21.85 | 22.13      | 22.66      | 20.35      | 2.852 .                 |
|        | 5.303 | 4.964      | 5.615      | 5.351      |                         |
|        | 201   | 84         | 58         | 51         |                         |
| やさしさ   | 15.43 | 16.13      | 15.91      | 13.78      | 14.155**                |
|        | 2.805 | 2.200      | 2.910      | 2.866      | 3<21                    |
|        | 201   | 84         | 58         | 51         |                         |
| まじめさ   | 18.50 | 18.80      | 19.17      | 17.47      | 4.48*                   |
|        | 3.147 | 3.357      | 3.113      | 2.663      | 3<12                    |
|        | 201   | 84         | 58         | 51         |                         |

| 親友     | 全体                    | 第1クラス<br>タ           | 第2クラス<br>タ           | 第3クラス<br>タ           |                 |
|--------|-----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|-----------------|
| 個性     | 20.65<br>4.441<br>201 | 21.12<br>4.778<br>84 | 21.10<br>4.216<br>58 | 19.87<br>4.110<br>51 | 2.267 .         |
| 性      | 11.21<br>4.546<br>201 | 10.88<br>4.314<br>84 | 12.00<br>5.123<br>68 | 11.04<br>4.267<br>51 | 1.115 .         |
| スポーツ能力 | 14.58<br>4.874<br>201 | 14.52<br>5.048<br>84 | 15.26<br>5.250<br>58 | 18.78<br>4.327<br>51 | 1.811 .         |
| 外見的魅力  | 14.29<br>3.680<br>200 | 14.84<br>3.814<br>88 | 14.66<br>4.145<br>58 | 13.65<br>3.492<br>51 | 1.042 .         |
| 社会的背景  | 17.70<br>4.155<br>201 | 18.20<br>4.086<br>84 | 17.97<br>4.275<br>68 | 16.43<br>3.951<br>51 | 3.172*<br>82<21 |
| やさしき   | 18.05<br>2.892<br>201 | 19.49<br>3.075<br>84 | 18.88<br>2.780<br>58 | 12.08<br>2.741<br>51 | 4.115*<br>9<21  |
| まじめさ   | 14.61<br>3.726<br>201 | 15.07<br>3.603<br>84 | 14.47<br>4.001<br>58 | 13.88<br>3.687<br>51 | 1.655 .         |

|         | 全体                    | 第1クラス<br>タ           | 第2クラス<br>タ           | 第3クラス<br>タ           |               |
|---------|-----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|---------------|
| 共感      |                       |                      |                      |                      |               |
| ファンタジー  | 20.74<br>5.075<br>201 | 21.18<br>4.672<br>84 | 23.88<br>3.921<br>58 | 16.89<br>3.970<br>51 |               |
| Z得点     |                       |                      | .077<br>.921         | .618<br>.778         | -.857<br>.782 |
| 個人的苦惱   | 18.54<br>4.871<br>199 | 22.80<br>3.092<br>84 | 14.81<br>3.976<br>58 | 16.41<br>3.737<br>51 |               |
| Z得点     |                       | .772<br>.685         | -.765<br>.816        | -.436<br>.787        |               |
| 視点取得    | 28.97<br>4.884<br>196 | 23.86<br>4.762<br>84 | 26.52<br>4.453<br>58 | 21.45<br>4.197<br>51 |               |
| Z得点     |                       | -.028<br>.975        | .522<br>.912         | -.516<br>.859        |               |
| 冷淡さ     | 9.54<br>3.865<br>199  | 8.71<br>2.680<br>84  | 8.71<br>3.737<br>58  | 12.05<br>2.988<br>51 |               |
| Z得点     |                       | -.246<br>.762        | -.247<br>1.111       | .749<br>.886         |               |
| 個別共感尺度  |                       |                      |                      |                      |               |
| 感情的暖かさ  | 42.27<br>6.580<br>200 | 43.38<br>6.328<br>84 | 44.75<br>5.255<br>57 | 37.16<br>5.728<br>51 |               |
| 感情的冷淡さ  | 26.58<br>6.422<br>200 | 25.32<br>5.246<br>84 | 24.93<br>7.280<br>57 | 30.22<br>5.798<br>51 |               |
| 感情的被影響性 | 19.00<br>4.049<br>201 | 20.79<br>3.693<br>84 | 18.16<br>3.670<br>56 | 16.90<br>3.996<br>51 |               |
| 共感経験尺度  |                       |                      |                      |                      |               |
| 共有経験    | 40.07<br>6.884<br>199 | 40.98<br>6.442<br>84 | 42.88<br>6.347<br>57 | 35.05<br>6.480<br>50 |               |
| 共有経験不全  | 39.15<br>6.972<br>198 | 38.77<br>7.145<br>84 | 38.77<br>7.672<br>57 | 40.96<br>5.827<br>49 |               |

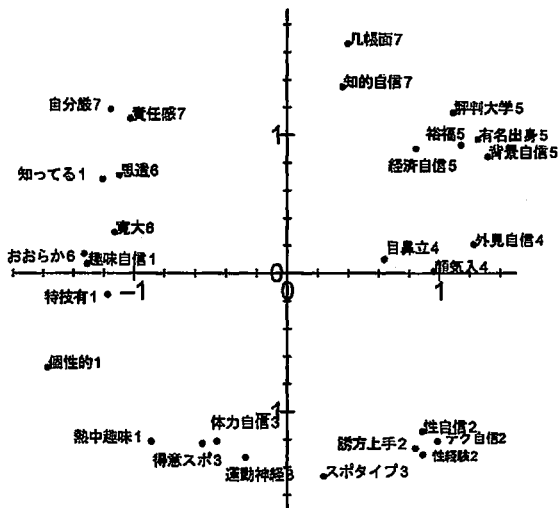


Figure 2 理想自己像の項目の布置

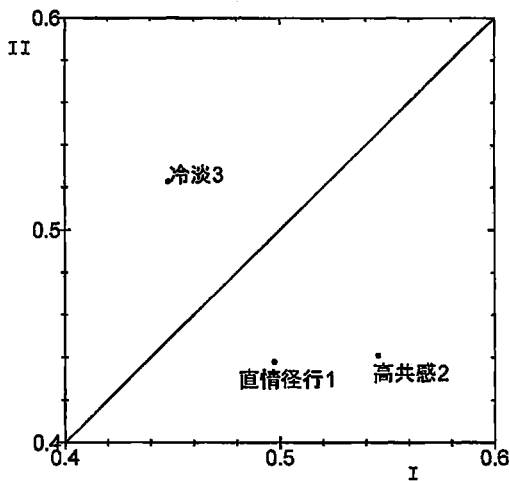


Figure 3 クラスタごとの重みづけ係数のプロット

「社会的背景」などが布置されることから、身体的特性(-)～非身体的特性(+)を区別する軸であると考えられた。

重みづけ係数のプロットからは第1, 2クラスタが対角線よりも第1軸方向に、第3クラスタが対角線よりも第2軸に重みづけられる方向に布置されていた。また、Table 3に見られるように第3クラスタは理想自己のすべての得点で、各クラスタの最低得点を示し、第2クラスタは高い得点を示す傾向にあった。すなわち第3クラスタ(冷淡群)は共感性の高い第1, 第2クラスタに比べ、理想とする自分のあり方に関して、「内面的か外面的か」ではなく、「身体的か否か」に基づいて理想自己を判断し、その結果、すべての側面について自分の理想にはあてはまらないと判断していることになる。反対に第1, 2クラスタは「内面的か外面的か」に基づいた判断をし、その結果、第2クラスタは自分の理想にあてはまると判断していることになる。

感情的共感性が低い者ほど、自分自身の理想像についても、心理的特性に注目した判断ではなく、身体的特性の有無に注目した判断をしていると言えよう。このことは、Damon & Hart (1982) ; Rosenberg (1986) らが記述したような、自己を判断する際の基準における発達の相違があるとすれば、感情的共感性が低位の者は、より発達の低次の段階で理想自己を判断している可能性が示唆される。

#### 付記

本研究は平成13-16年度科学研究費補助金(基盤C(2)一般 課題番号13610123「青年期危機が人格の発達に及ぼす効果に関する研究」の研究の一部として実施されたものである。

#### 引用文献

- Damon, W., & Hart, D. 1982 The development of self-understanding from infancy through adolescence. *Child development*, 53, 841-864.
- Davis, M.H. 1983 Measuring individual differences in empathy: Evidence for a multidimensional approach. *Journal of personality and social psychology*, 44, 118-126.
- 柏木恵子 1983 子どもの「自己」の発達 東京大学出版会
- 加藤隆勝・高木秀明 1980 青年期における情緒的共感性の特質 筑波大学心理学研究, 2, 51-70.
- 久保ゆかり 1998 「気持ちを読みとる心の成長」丸野俊一・子安増生(編) 子どもが「こころ」に気づくとき ミネルヴァ書房 Pp.83-107.
- 桜井茂男 1988 大学生における共感と援助行動の関係: 多次元共感測定尺度を用いて 奈良教育大学紀要 37 149-154.
- Rosenberg, M. 1986 Self-concept from middle childhood through adolescence. In J.Suls, & A.G.Greenwalt(Eds.)

- Psychological perspectives on the self vol.3.* Hillsdale, NJ :Lawrence Erlbaum Associates.Pp.107-136
- 角田豊 1994 共感経験尺度改訂版(EESR)の作成と共感性の類型化の試み, 教育心理学研究,42,193-200.
- 山本真理子・松井豊・山成由紀子 1982 認知された自己の諸側面の構造 教育心理学研究,30,64-68.